

下野市行政改革推進委員会 議事録

- ・ 審議会等名 令和2年度 第5回下野市行政改革推進委員会
- ・ 日 時 令和3年3月10日（水）午後2時30分から午後4時10分
- ・ 場 所 下野市役所 3階 303・304会議室
- ・ 出席委員 中村祐司会長、小池隆男委員、手塚英男委員、金田幸子委員、橋田一成委員、川俣一由委員、角田充仙委員、宮下明枝委員、蓮見忠夫委員
- ・ 欠席委員 植草英一郎委員、小島恒夫委員
- ・ 市側出席者 広瀬市長、山中副市長、池澤教育長
（事務局）小谷野総合政策部長、福田総合政策課長、荻原課長補佐、甲田主査、菊地主事
- ・ 公開・非公開の別（ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開 ）
- ・ 傍聴者 0名
- ・ 報道機関 なし
- ・ 議事録（概要）作成年月日 令和3年3月31日

○次第

【第一部】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事
 - （1）議事録署名人の指名
 - （2）第4回下野市行政改革推進委員会議事録の確認について
 - （3）令和2年度下野市行政評価市民評価報告書（案）の確定
 - （4）その他

【第二部】

- 1 開 会
- 2 令和2年度下野市行政評価市民評価報告書の提出
- 3 市長あいさつ
- 4 市長との意見交換
- 5 閉 会

【第一部】

○開会

（事務局） 令和2年度第5回下野市行政改革推進委員会を開会いたします。

○あいさつ

（事務局） 開会にあたりまして、中村会長よりご挨拶を申し上げます。

（中村会長） コロナ禍において、栃木県の近隣である4都県の緊急事態宣言が延長されており、感染者やなくなられる方の人数が一定以上下がらない状況であります。ま

た、変異種も一定数感染しており、諸外国では猛威を振るっていると同っています。長期的な対応を迫られている中でも、オンラインや人との接触を控える方法を考えたうえで、委員会も開催でき、皆様のおかげで、本年度の最終回の委員会までこぎつけることができました。本日もよろしく申し上げます。

○議事

(1) 議事録署名人の指名

[会議傍聴の確認]

(中村会長) 今回の議事録署名委員を指名させていただきます。宮下委員、蓮見委員にお願いいたします。

(2) 第4回下野市行政改革推進委員会議事録(案)の確認について

(事務局) 事前に委員の皆様へ配布し、確認していただきましたところ、修正等はありませんでした。他にご意見等なければ確定とさせていただきます、会長と署名委員に署名をお願いしたいと思います。

(中村会長) 議事録について、ご意見等なければ確定し、公表したいと思います。

(3) 令和2年度下野市行政評価市民評価報告書(案)の確定について

(事務局) 「令和2年度下野市行政評価市民評価報告書(案)」については、事前に委員皆様へ配付し、ご確認いただきましたところ修正等の報告はありませんでした。本日は報告書の確定のため、ご確認ください。

(中村会長) 令和2年度下野市行政評価市民評価報告書(案)について、意見等ありますか。「意見等なし」

(中村会長) それでは、報告書(案)については確定とさせていただきます、この後、市長へ提出いたします。

(4) その他

(中村会長) その他について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 本日の議事録については、この後の報告書提出と意見交換の内容を含めて作成し、調整次第、送付させていただきます。内容等をご確認いただき、訂正等については、返信用封筒でご報告ください。議事録への署名については、署名人の方へ郵送または自宅まで伺わせていただき、署名していただく予定です。

(中村会長) 第一部で予定されていた議事はすべて終了しました。一度事務局へ進行をお返しします。

(事務局) 第二部では市民評価報告書の市長への提出と意見交換を行います。

【第二部】

○開会

(事務局) これより、令和2年度第5回下野市行政改革推進委員会第二部を開会します。

○令和2年度下野市行政評価市民評価報告書の提出

- (事務局) 本日は、当委員会にて、事前に令和2年度下野市行政評価市民評価報告書(案)について協議いただき、確定しましたので、ここでご報告します。それでは、中村会長から市長への報告書提出となります。
- (中村会長) 委員会で長い時間協議を重ね、報告書に委員の総意を取りまとめました。評価意見を真摯に受けとめ、市政に反映していただくようお願い申し上げます。
- (広瀬市長) ありがとうございます。

○市長あいさつ

- (広瀬市長) 今年度の市民評価においては、評価対象10事業の選定に始まり、各事業のヒアリング、その後の評価の取りまとめなど、委員にはお忙しいなか、市の事業について市民目線から議論していただいたことに感謝申し上げます。現在、第二次総合計画に基づき各種政策を推進しており、今年度は全605事業について事務事業評価を実施しました。その中から市民評価に選定された10事業は、いずれも市の重要な事業であり、下野市の今後の発展・活性化に向けた事業展開について活発な議論がされたことと思います。先ほど、中村会長より令和2年度下野市行政評価市民評価報告書をいただきました。全体的に肯定的な評価ではありますが、個々の評価内容では、事業への期待の大きさがうかがえる反面、さらなる効率性や公平性、また、新型コロナウイルス感染症による新しい生活様式を踏まえた対応を求める意見が出ているところです。市では、この報告書に記載された評価や意見を真摯に受け止め、市政に反映させることが非常に重要と考えています。新型コロナウイルス感染症の収束が未だ見えない中ではありますが、下野市の新たな未来に向けた大きな一歩として、本日は、委員の皆様から、各事業に対する貴重なご意見をいただき、市民の皆様との協働による、より良いまちづくりにつなげていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

○市長との意見交換

- (中村会長) 下野市の要となる方々が集まる貴重な機会となります。意見等ありますか。
- (蓮見委員) 今年度は新型コロナウイルスの影響で、仕事や私生活でも支障があり、あらゆるものが見直しとなったと思います。例えば、仕事の優先順序の見直しは行政改革としても関係してくると思います。その中で、命を守る仕事が最優先とよく言われます。マスクや手洗い、ワクチン接種についても、あくまで予防であり、ウイルスに対して恐ろしいと感じるのは、治療等、ウイルスに立ち向かう方法が確立していないことから生じていると思います。以上の点から、日本での自然科学の研究が遅れており、世界に頼らざるを得ないと実感しています。また、コロナ禍を契機に、働き方改革やオンラインでの取組、ワークライフバランス等、今まで進められなかった課題に無理にでも取り組まなければならなくなったと最近は感じています。そのため前年踏襲や前年を参考とすることにとらわれていては、このご時世の危機を脱出できないです。
- (中村会長) 蓮見委員の意見を受け、下野市では、コロナ禍に対してどのように立ち向かっ

ていくのか伺いたいです。

(広瀬市長) 蓮見委員のおっしゃるとおりだと感じています。新しい生活様式とは、今までなかったことに対して、人々の生活を永続的にするための仕組みを作っていくことです。市民等の方の目には写りづらかったことかと思いますが、昨年の緊急事態宣言以降、職員の出勤体制について三部体制とし、各部署が機能しなくならないよう、職員間で絶対に接触しない人がいるかたちとしました。今年の緊急事態宣言では三部体制から二交代制にし、現在では各部署7割の出勤として徐々に緩めました。リモートワーク等を活用することで乗り越えてきているところですが、業務の性質上、リモートワークにそぐわない部署や外部に持ち出すことができない仕事もあることを改めて実感したところです。それでも、行政の業務を継続することはできましたが、事業を実施するうえで課題がありました。福祉部門では、高齢者に様々な場に出てきてもらい交流を深めてもらう事業が多数ありましたが、逆に人と人との接触を減らすようにしなければならない、また観光関連では、天平の花まつりは約20万人の方に来ていただくイベントであったにも関わらず、2年連続で中止にせざるを得ませんでした。まったく異なる方向性にどのように転換するかを考えなければならず、観光部門については困難を極めていますが、産業祭での催し物の一部はウェブで行うことができることが分かり、実施いたしました。今までは、閉じこもりやウイルスに感染しないような取組を実施してきましたが、今後は経済的弱者の救済をどのように取組んでいくのが課題です。病気で命にかかわってくるだけでなく、経済の停滞により病気を患うようなこと、命にかかわることに対して、真摯に向き合っていかなければならないと考えています。ワクチンの接種については、今まで守りであったのに対して、初めて人類が攻めが変わるものなのかと思っており、未確定な部分もありますが、ワクチンにより免疫ができることで、人との接触や外出できる取組について進めていくことができるようになることに期待しています。しかし、新しい生活様式に関して、プラスとなる部分もありました。一部分的なことですが、インフルエンザの発生や亡くなったという報告をほとんど聞きません。これは、日本人の勤勉さによる努力だと実感しています。これらを踏まえ、できる限りのことに取り組みつつ、市民の声に耳を傾けながら進んでいきたいと思えます。

(小池委員) グリーンタウンについて、35年程前に開発され、当時東京エリアから移住してきた方が多くおり、現在では70代程度になる方々が住んでいると思えます。また、空き家も増えてきており、高齢者が多く住んでいることと併せて目立つようになりました。全国的なリモートワークの推進や宇都宮市での教育地区の整備といった取組もあり、下野市も大宮駅等から1時間程度で来ることができることから若い世代が注目しているという話も聞きました。駅近く等、立地条件が良いエリアであるため、再開発や空き家等の活用等を検討していただきたいです。

また、オリンピック・パラリンピック大会組織委員会の森会長の発言問題のような、発言内容について個人的な捉え方になってしまい、発言した側の意図で

はなく受けた側の主観で意味が決定してしまうようなことが多々あると感じています。そのため、行政が取り組むべきことではないのかもしれませんが、人と接する際の対応等について、子どもが高齢者の話を聞く機会を設ける等、学校で教育することも検討していただきたいです。

(広瀬市長) 自治医大のグリーントウンは、住みたい方も多く、市内でも地価が下がらない地区です。しかし、現在所有している方が土地を手放さないという状況です。グリーントウン地区には祇園小学校と緑小学校があり、持ち家が多い緑小学校地区では子どもの数が減少しています。子どもを増やすため、行政としても、空き家対策に囚われることなく、何かしらの対策をしていかなければいけないと思っています。新年度予算には、本市のコンパクトシティを推進するため、都市計画を検討するための新年度予算を計上しています。来年度からは第二次下野市総合計画後期基本計画をもとに政策を進めてまいります、その後の第三次下野市総合計画期間を見据えて、これから予備調査を行っていく予定です。そのうえで、多くの市民の皆様と意見交換しつつ、進めていきたいと思っています。

(教育長) 発言内容の捉え方について、人それぞれの違いを認め合うという人権意識の尊重を教育課程に位置付けています。しかし、全国的にみて、コロナ禍で新しい価値観や意見の違いが生まれ、差別的な発言があることも認識しています。その点を踏まえ、新しい学習指導要領では主体的で対話的な深い学びを目指して進められていることから、コロナ禍での人権尊重にも対応した教育環境をつくっていききたいと思っています。また、本市ではいじめ基本方針が議会に承認されたため、それに対して、施策を展開していきたいと思っています。

(橋田委員) 商工振興に関して、昨年の緊急事態宣言の際、事業への補助や金融施策を行ったことで、事業者は助かった面もあると思います。しかし、経済の活性化といった点には、今年度はなかなか取り組めなかったとは思いますが、今後の方針として、例えば、市の立地企業連絡協議会を活性化する取組等は検討されていますか。

(広瀬市長) 例年では、意見交換会等を実施し、立地企業連絡協議会から意見をいただくところですが、現在できていません。現状、要望については担当レベルでは受け付け、対応することにとどまっており、例えばリモート会議等を開催するといったことには至っていません。担当レベルで受け付けている要望については、主に融資や企業の持続化といった内容であり、前へ打って出る政策ではなく今を守るための政策が中心となっている状況です。そのため、金融機関が把握している情報と行政ができる政策制度を掛け合わせ、新しい取組を検討していくことが重要となってくると感じています。また、国では、持続化給付金により対応しているところですが、細かい点まで行き届いているか、すべてにおいて満足するところまで達しているかという点と難しいと思いますので、地方自治体も一緒になって対策していくことが重要と考えています。

(川俣委員) 老人クラブについて、年々減少しているところですが、そのため、市民体育祭を各地区で行っていますが、グランドゴルフ等を体育祭で得点化し、高齢者も競技に参加できる仕組みとしてほしいです。参加できる種目がないから参加しな

いといった高齢者もいるため、得点化することで、高齢者の励みとなると思います。

(教育長) 先日、スポーツ推進委員会を開催し、また、4月2日には総会を予定していません。スポーツに関して、コロナ禍だからできないではなく、どうしたらできるかを考えており、例として、国民体育大会のリハーサルでは当初キンボールを実施する予定でしたが、代替案としてボッチャを行うといった意見もありました。川俣委員の意見については、提案していきたいと思います。

(手塚委員) 三王山ふれあい公園について、良い施設ですが夏場を考慮すると日陰が欲しいと思います。また、自然環境に関していくつかお伝えしたいことがあります。一つが、薬師寺の三昧場について、ため池の水をすくってみるとブルーギルとバスが多く生息しており、五千石球場のまわりの水路の一部にビオトープのような箇所がありますが、そこではタガメが大量に生息しています。二つ目にネオニコチノイド系農薬があり、それは神経系に影響を与えていることから、ミツバチが巣に帰れなくなり、減少に影響を与えていると言われています。三つ目に、調整池と三王山の池は農薬の入ってこない水たまりになります。そこには、もともとはいなかったと思われるチョウトンボが現在生息しており、貴重な自然環境があります。以上のことを、自然環境保全のためにも覚えておいていただきたいです。

(広瀬市長) 三王山ふれあい公園について、キャンプ場は以前木々が生えており、その木々を切ったせいで日陰がなくなったとよく言われますが、全体的に木々が生えていたことから問題なかったのですが、間引きのため一部切った際に風で木が倒れるようになってしまいました。そのため、危険を考慮してすべて切りました。現在は、新たに木々を植え、成長した際に日陰ができるようにしました。自然環境については、未来へ残せるよう十分に配慮するようしていきたいと思います。

(宮下委員) 子ども会育成会連絡協議会に加入している保護者から、一部の意見ではありますが、時間を取られるような団体には入りたくないといった声もあります。そういった方も活動の趣旨や意義を考慮すると子どもの未熟な部分を補うためにも大人の関わりの重要性は十分理解していますが、仕事や子どもの習い事により加入せず、地域のイベントや集まりに参加できない子どもがいることや、子ども会に補助を出している自治会に入っていないため子どもの活動が制限されてしまうことがあります。そのため、子どもの成長のためにも行政からも加入の促進をしていただきたいです。また、コロナ禍により、オンラインを通して子どもが会話ややりとりをすることを聞きました。一部の保護者にアンケートを実施したところ、SNSの使い方については子どもより大人のほうが分かっていない、子どもはSNSの危険な面を理解していないといったことが明確になりましたので、オンラインについても環境を整えていただき、子どもが安全に使えるようにしていただき、子どもがのびのびと主体的に活動できるようにしてほしいです。

(教育長) SNSやオンラインの活用については、来年度よりGIGAスクール構想により、

一人一台タブレットを持つこととなります。オンラインについて知ってもらうため小学校三年生までには親子研修を予定しており、四年生以上には使いながら安全な使い方を学び、併せて良さを知ってほしいと思います。子ども会育成会への加入については、全国的に減少傾向であり、学校だけでは不十分なところもあるため、地域とともにある学校づくりの中で、学校運営協議会を中心に検討していきたいと思います。

(蓮見委員) グリーンタウンの諏訪山公園の遊具を新しくしたと思いますが、その際に工事現場に掲げる標識に、請負金額が記載されていました。受益者と負担者である市民にとって、税金がどの程度使われているのかすぐ分かるため、完成したものを大切にすするきっかけにもなり、非常に良いと思いました。

(中村会長) 時間になりましたので、進行を事務局へお返しします。

○閉会

(事務局) 以上で、令和2年度第5回下野市行政改革推進委員会を閉会いたします。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長

署名委員

署名委員